

研修報告書 No.13

研修先： 嶺北中央病院

令和7年8月4日から8月31日までの4週間、高知県長岡郡本山町に位置する嶺北中央病院で地域医療研修を行いました。私は高知市に祖母が住んでおり幼少期から高知県に訪れていたこともあり、今回ご縁を感じ高知県での地域医療研修を希望しました。短い間でしたが、嶺北中央病院では訪問診療や外来など、普段、臨床研修を行っている大学病院では経験できないことを多く経験することができました。

高知県は令和4年の調査で11市町村23地区の無医地区があり、その数は全国で6番目に多くなっています。その中で嶺北中央病院は汗見川や大川村の診療所への医師等の医療スタッフの派遣、嶺北地域への往診を行うなど、へき地拠点病院として地域医療に貢献しています。また救急告示病院として高知市内の二次・三次救急病院と連携して内科疾患を中心とする嶺北地区の二次救急医療を担っています。

県外在住医師として嶺北中央病院で4週間研修を行った中で、医師・看護師を含む限られた医療資源を地域全体で最大限効率的に活用するという目標のもと、嶺北地区で持続可能な地域医療提供体制を確保する信念を感じることができました。公立病院ということもあり医療資源に対する意識も高く、いずれ全国的に直面するであろう医師不足を含む医療資源の偏在、不足という問題に対して積極的に取り組んでおり、大阪府内の大学病院で初期研修を行っているだけでは得られない貴重な視点を得る機会を持つことができました。

研修内容としては、訪問診療や内科外来などを行い、地域住民のかかりつけ医としての役割を担う地域包括医療の業務に携わることができました。また、新規の入院患者さんを担当しました。普段研修を行っている大学病院のような急性期病院では急性期を過ぎた患者さんは慢性期の病院に転院させなければならず、研修医は患者さんの「経過」を知ることは困難であり、まして転院した患者さんのその後の「生活」は想像することしかできませんでした。そのような急性期病院と異なり、嶺北中央病院では患者さんの在宅復帰や施設入居までの包括的なサポートが不可欠であり、患者さんの生活の真ん中で、患者さんファーストな包括的な医療を提供する実際の様子を経験できたことは非常に有意義だったと思います。

今回の地域医療研修で得られたものとしては、人口減少・少子高齢化に伴う医療需要の変化に伴い、今後本邦が直面するであろう医療資源の偏在、不足に対して順応しながら、持続可能な地域医療提供体制を確保する病院での研修を経験できたことが大きいと思います。また、入院患者さんの多くが後期高齢者であり、長く住み慣れた地域で安心して十分な包括的医療サポートを提供する地域住民のかかりつけ医としての病院のあり方が非常に理想的であり、医師を目指したころの初心に立ち返る良い機会となりました。

今後もこの地域医療研修で得た経験を活かして精進してまいります。4週間本当にあり

ありがとうございました。